

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4675100111
法人名	有限会社 フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
訪問調査日	平成21年1月16日
評価確定日	平成21年2月16日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4675100111
法人名	有限会社 フェルナンデス
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	伊佐市菱刈重留1137 (電話) 0995-24-1688
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	羽月坂元医院 つよしくりニック 中村弘医院 こうき歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改築したホームは、田園地帯に囲まれたのどかな地域に建てられている。職員は家族のような気持ちで利用者へ接しており、ホーム全体が笑顔に溢れ、ゆっくり、ゆったりとした温かい雰囲気が感じられる。近隣住民との交流も盛んに行われ、互いに協力し合いながら良好な関係が築かれている。隣接する同一法人の訪問介護や通所介護、宅老所などと連携を取りながら、多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念について職員全員で話し合い、事業所の役割を理解しながら職員にわかりやすく浸透しやすいものを掲げている。また、運営方針の中では、地域との相互信頼関係を築くことを掲げている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を基に、全職員参加のミーティングで話し合いながら自己評価を実施している。また、外部評価における指摘については職員へ報告し、改善策を検討して迅速に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、行政担当者・老人会長・民生委員・地域代表・利用者家族など、多くの方々が参加している。会議では、ホームの活動状況・行事計画等の報告を行い、議題によっては事前に消防や警察等から専門的なアドバイスを受けている。質問に対しては詳細を説明すると共に、あらゆる立場からの意見や要望を受けて、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議にご家族が参加しており、家族会の開催や面会時には声かけしている。ご家族から出された意見はミーティングの中で話し合いながら、改善策を講じて運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りに参加したり、校区の駅伝大会の応援をするなど、地域の行事に積極的に参加している。高校生のボランティアをはじめ、近所の方に庭木の剪定をしてもらったり、野菜の差し入れを受けており、お返しにホームからお菓子を差し入れたりしている。また、学校や社会福祉協議会へ、手製のお手玉や雑巾を寄付するなど、地域への貢献も行っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、グループホームの理念の重要性を充分理解し、職員にわかりやすく浸透しやすい事業所独自の理念を作り上げており、運営方針の中で、事業所の役割を考えた地域との相互信頼関係を築くことを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所に理念を掲げており、職員がいつでも目にする事ができ、理念に基づいたケアが行えるようにしている。日々のケアの方法についても、その都度理念に基づいた対応方法について話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りに参加したり、校区の駅伝大会の応援をするなど、地域の行事に積極的に参加している。高校生のボランティアをはじめ、近所の方に庭木の剪定をしてもらったり、野菜の差し入れを受けており、お返しにホームからお菓子を差し入れたりしている。また、学校や社会福祉協議会へ、手製のお手玉や雑巾を寄付するなど、地域への貢献も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を基に、全職員参加のミーティングで話し合いながら自己評価を実施している。また、外部評価における指摘については職員へ報告し、改善策を検討して迅速に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政担当者・老人会長・民生委員・地域代表・利用者家族など、多くの方々が参加している。会議では、ホームの活動状況・行事計画等の報告を行い、議題によっては事前に消防や警察等から専門的なアドバイスを受けている。質問に対しては詳細を説明すると共に、あらゆる立場からの意見や要望を受けて、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、市担当者や地域包括支援センター職員に状況報告や相談を行っており、市の施設を訪れて利用者との交流を図っている。市の担当者がホームに立ち寄り、利用者の暮らしぶりを目にする機会は充分とは言えない。	○	運営推進会議以外でも、市の担当者に利用者の暮らしぶりを見てもらえる機会を設けて、更なるサービスの質向上に連携して取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2～3ヶ月毎に発行される「ひだまり通信」には、ホームでの行事や活動内容が掲載されており、一人ひとりの状況についてのコメントと写真、金銭出納帳の写しを同封してご家族に郵送している。さらに、詳細な利用者の状態や活動内容については電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族が参加しており、面会時や行事開催の際にもご家族の意見を聞いている。ご家族から出された意見はミーティングの中で話し合いながら、改善策を講じて運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、離職が最小限になるように努力している。職員交代があった場合は、新しい職員が利用者や馴染みまで、同行期間を設けてケアの継続性を確保し、慎重に段階を経ながら係るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や立場に合わせて研修計画を立て、外部研修を受ける機会を作り、スキルアップのための支援・協力を行っている。新人職員に対しても、計画に沿った内容の事業所内研修を行っている。また、毎月ミーティング時に、職員の希望する内容の研修を行っており、知識・技術の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1回開催される地域密着サービス協議会に参加しており、職員の交流計画を立てて情報交換の機会を設けている。また、他事業所からの見学や実習を受け入れたり、こちらからも職員が実習に出向くなどして、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学してお茶を一緒に飲んでいただいたり、同一法人の訪問介護サービス利用から通所介護サービス利用を経て、徐々に馴染めるように支援している。また、利用開始後、帰宅願望がある場合は、ご家族の面会やマンツーマンの対応、自宅への外出等を行うことで安心感を持ってもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	行事や風習・ことわざをはじめ、味噌や蕎麦、ちまき等の作り方や調理方法について教えてもらう機会を多く設け、状況に応じて一緒に作業を行っている。また、子育てについてもアドバイスをもらうなど、お互いに支えあう関係を築き、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出計画や散歩のコースなどについて選択してもらう機会を多く作ったり、返答を急がせることなく意向や思いを表出する機会作りに取り組んでいる。また、利用者の意見や希望についてミーティングで職員に周知し、必要に応じて話し合いを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族から思いや意見を聴取して計画書に記載し、カンファレンスを開いて、職員からの意見を含めて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族に会議出席を依頼したり、出席できない場合は電話で要望を聴取すると共に、職員が日々の気づきをミーティングで話し合い、状態の変化時や、定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の訪問介護・通所介護・宅老所と連携が取れており、希望のあるご家族には、週1回、ホームでの食事の機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行い、ご家族が付き添えない場合は職員が同行して、事前にご家族から聴取した治療への意向を医師に伝えたり、日々の観察事項についての情報を提供し、受診結果についてはご家族へ報告している。日頃から、かかりつけ医に相談や報告を行いながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、事業所としての方針を説明すると共に、本人やご家族と話し合いながら意向を確認して、関係者全員で方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に個人情報の取り扱いについて管理者より指導が行われ、誓約書を交わしている。個人記録や書類の管理は、適切に行われている。プライバシーの確保についても、日々のケアを通して羞恥心に対する配慮を指導しながら、尊厳について学びの機会を作っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや生活リズムを尊重し、状態や希望に合わせて、起床や就寝、食事などができるように支援している。本人の希望に沿いながらも、何もしないことがないようにタイミングを図りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所の畑で、利用者と一緒に育てた季節の野菜や、近所の方からいただいた食材をメニューに取り入れて調理している。でき上がった料理はそのままの姿を見ていただいてから状態に応じた食事形態にするなど、食事を楽しむことができるように細やかな配慮がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後から行っているが、利用者の状態や希望によって、柔軟に対応することができる。入りたがらない方に対しては無理強いすることなく、着替えを理由に誘導するなどの工夫をしている。また、間隔が空き過ぎないように、入浴の有無を記録に残している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け・洗濯物たたみ・畑での野菜作りなど、力量や経験を活かして役割分担しながら支援している。また、市の施設「まごし館」に出かけて食事を楽しんだり、季節の花々を眺めるなど、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に出かけたり希望のコースを散歩するなど、一人ひとりの意向や身体状況に合わせて、日常的な外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠されておらず、外への移動は自由に行える。利用者が外出した際は同行して見守り、近隣住民に協力を得ながら、夜間、防犯上の施錠以外は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害の経験から備蓄を行い、緊急時には地域の避難住民に対しても食材を提供できるようにしている。消防団の協力のもと、防災訓練を年に2回行い、夜間想定訓練、通報・避難・消火の各訓練を実施しているが、職員の参加状況が十分に把握されていない。	○	防災訓練の参加状況を把握し、参加できなかった職員を次回の訓練では優先的に参加させて、手順や避難方法を全職員が確実に習得できるように配慮していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は、利用者の状態や季節によって大まかな目安を定めており、食事摂取量と共に記録に残し、職員間での引継ぎ時に把握するように工夫している。		管理栄養士に献立表を見てもらう計画があるので、栄養バランスについての専門的なアドバイスを受けることで、さらに質の高い支援が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からはウッドデッキに自由に入出することができ、庭の花木をながめて季節を感じながら、心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	CDデッキやソファ、コタツや家具・寝具類など、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご家族の写真や好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間が作れるように配慮されている。		